XB10-299

教草 第廿五 油一覽

國產を繁殖せしめ國家の鴻益を謀り人々をして各其業に就しむるハ幼時より其產業を授るにあり然れども各地の風土各々の差一様ならず父兄たるもの其子弟をして預め各業の大畧を知らしめ其好む所乃業に從事せしむるをよしとん因て今國產となるべきもの內より各業の大槩を記して画圖を加へ童蒙をして他日脩產の階梯となさしめんとん

明治七年九月　博覽會事務局

定價金五錢

0007952427

第一 稲米
第二 糖製
第三 養蚕
第四 生糸
第五 樟虫
第六 野蚕
第七 葛布
第八 苧麻
第九 草綿
第十 製糸草木
第十一 索麪
第十二 葛粉
第十三 藍
第十四 青花紙
第十五 製茶
第十六 烟草
第十七 漆
第十八 蒔繪
第十九 蠟
第廿 白柳
第廿一 疊表
第廿二 香蕈
第廿三 [redacted]
第廿四 蜂蜜
第廿五 油
第廿六 臙脂
第廿七 澱粉上
第廿八 澱粉下
第廿九 裼腐
第卅 豆腐

油一覧

油の用三あり食用とす燈油ニ用ひ薬用及種々の製造ニ用ゆるなり此三用を兼るものあり或ハ燈油のミニ用ゆるあり又ハ製作のミニ用ゆるあり油を生ずるの原質ハ動物植物礦物の三類中ニおのおの油を生ずるあり今植物より生ずる物を左ニ挙ぐ

○油を生ずる植物

蕓薹　紅藍　胡麻
草綿　落花生　山茶
榧　粗榧　罌子桐
胡桃　米糠　荏
ブナ　松根

尚此外ニ蓖麻子油巴豆油桂皮油薄荷油橙皮油等あり いづれも薬用ニ供す外國産の植物油甚多し其著しきものハ

亞麻油　阿利襪油 俗ニホルトガル油といふ
罌粟子油　椰子油
松節油 即テレビンテイナ杉松類より生ス

○油の搾り法ハ其品ニよりて少しの加減ハあれども大概皆同じ今蕓薹油を搾る法をあげ其他皆之ニ傚へ且て是より蕓薹を培養する法を附記ス

○搾油の分量

蕓薹子より出る油の分量ハ二割七分より二割五六分ニ至る土地ニよりて其分量ニ多少ありといへども要するニ養料の多少ニよるなれバ力を用ゐて培ひ養料を多く与ふれバ瘠地といへども膏地の養料あるよりも多く油を出すなり

○種子を乾す事

油を搾る前ニハ必ず種子を日ニ乾すべし地面微く片下りにして水流れよく早く乾燥する地を撰ミて筵をひろげ一時間毎ニ筵の両端をとりてまぜ合せてよく干すべし晴日なれバ一日ニてよし日光弱き時ハ二日ハ三日もほすべし

○種子を焙り炒る

其次ニハ種子を炒鍋ニ入れて炒る也此炒方ニ加減ありて炒過さる様注意すべし亦十分炒らざれバ油の出方あしく炒りたる後是をさまし碓ニて粉となし目細き篩ニてふるひ残りたる滓ハ又舂きて粉とするべし

○一番搾

油の搾り法國々ニて大同小異あれども今爰ニハ関東ニて製する所の法を挙て其餘を略ス扨粉にしたる種子一石二斗を搾らんとする時ハ二升づつ六ツニ分ちて壹ツ分二升を蒸籠ニ入てむして後袋ニ入れ臼の中ニ金輪を重ね立桟をたて金輪立桟ハ下乃〔子〕

〔丑〕図ニ顕はし其中ニ入て図の如く正當石を置き其石の上ニ古き袋の切を敷その上ニ棹を通し矢をさめて槌ニて両方より打バ油ハ桶の中ニこぼるゝなり先初打そろそろと置又両方より打バ油ハ一しきり垂るゝ也かくの如くする事三度程ニして矢を抜棹をはづし石をとり除き袋を出し滓を打碎け押ひしぎ猶足ニて細かニふミ碎きて碓ニてつき十八の篩(壹寸間ニ十八筋通りたる糸筋といふ)ニて通し炒鍋ニて水気のとぶまで炒りて筵ニ打あけ冷まし此業をなす間ニ別ニ二升づつを蒸〔寅〕

〔卯〕籠ニて前ニいふ如くして追々搾るなり

○二番搾

前ニ述し如く筵ニあけて冷せし粉を再五ツニ取わけ一番搾のごとく蒸籠ニてふかし前法の如く打て搾る也此度ハ油の尽るまでを度とする事なれバ少しも垂ざるを見て矢を抜棹をはづし臼より出し袋を去り塊を踏てくだき碓ニて搗て杵の辺へうつさぬやう粉の和らかなるやうに搗き三十の篩(二寸の間ニ三十筋うちたるを云)ニて通し其他ハ一番搾りの時の如し

○三番搾〔辰〕

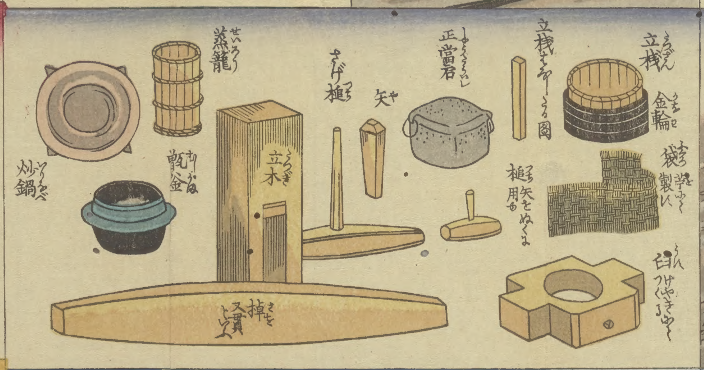
〔巳〕二番搾りの滓を又粉ニなし篩ひ搾り方前ニ同じ此度ハ最後の搾り方故下手なるときハ油のこりて滓もあらし油のよく抜る滓ハ肥よ用ゐて功験著し若油よく抜ざれバ種子一石の上ニて油三四升程も減るなれバよく心を用ゆべき也以下菜種を植る事を附記す

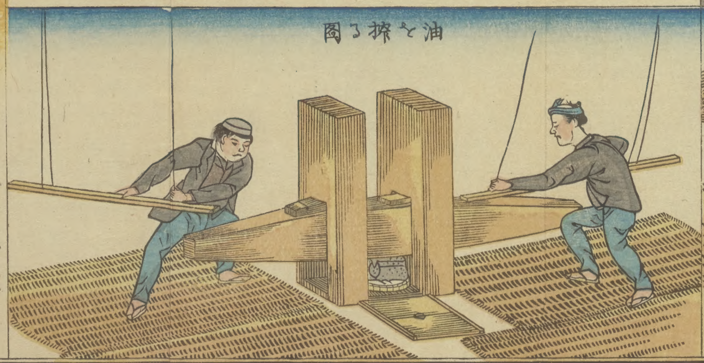
○菜種を植る土地

蕓薹を作る土地ハ田を仕直して作る事畑ニ作るハ油多し然れども養料さへ多く与ふれバ畑ニ作るも油多し赤真土ハ都て土性の力のある地ニ作る種子ハ實入よく油多し乾地より湿地の方よろし

○植附の法

蒔る侭ニ生長させるも苗を植るも〔午〕





〔未〕両様ありいづれも其植るものの好ミによるべし然れ共蒔る侭ニ生長せしむるハ苗を植るよりハ手數少し前法ハ畝の上ニ五六寸置ニ穴をつき一握づつの壅肥を入て種子を五六粒づつ蒔其上ニ摺糠ニ灰を交ぜたるを置て追々生立するを三本残し其餘を抜去るなり

○苗植の法ハ苗床を秋分ニよくこなし肥しを与へ乾して麦を蒔く如く畝を切て蒔まくべし二葉ニして出し頃繁密なるを抜去り水肥を与へ一寸程ニなれバ亦抜去り一尺より一尺二三寸ニ伸る頃堀とり畝へ移し植る也尤根先の細き処ハ切捨べし大きなる苗ハ二ツ亦ハ三ツ四ツニ割り葉と共ニ引きわけて植べし畝ハ前法と同じく〔申〕

〔酉〕七寸宛ニ穴を二行五の目ニ突き其穴の中へ灰肥亦ハ壅肥を一握づつ入れ其処へ苗の根をさし込指ニて土をつまミ寄せ根を蓋ひ置て又一行ニ植るハ一間ニ六七株を植るべし春分ニ至れバ二尺位ニ伸び花を催す頃莖の心をつまミ切るべし爾すれバ脇より追々芽を出し枝となり栄ゆるなり

○収穫

夏至前後を度として熟したると見て刈べし青きを刈る種子ハ色あしく莢枯て刈るハ黒し黒きハ油多し刈りて後畑の畝へふせ置四五日程ニて乾きたるは筵の上ニて棒を以てうち落し或ハ手ニてもミ落しごミを篩ひて〔戌〕

〔亥〕後俵ニ入る以上蕓薹の培養搾油の方法なり此他上ニ列ねし各種の子実の油を搾る法も大概同じ惟其種類及培養の方ニ各異なれども爰ニ餘白なし追て次篇ニ述べし

○外國産の油品類多し其中亞麻仁油ハ亜麻の子仁の油なり此草の莖を苧を製し布を織るべく実ハ薬用となし亦油を搾る其滓ハ養料ニ甚宜し別ニ亜麻一覧を述ぶべし其外動物礦物より出る油の品類も亦別ニ編述すべし

明治七年五月

武田昌次述
服部雪齋画

男爵田中芳男氏寄贈
先代田中芳男旧蔵書 昭和七年
B 65992
東京大学総合図書館